

岡山県医師会女医部会報

第11号

岡山県医師会保育支援事業研修会
第6回岡山県医師会女医部会懇談会

日時：平成22年9月25日(土) 14:30~16:30

場所：岡山衛生会館3階 第3会議室

「山口県医師会の保育支援事業について」

(社)山口県医師会 女性医師参画推進部会理事 上田 聡子



山口県医師会では、平成16年に「女性医師が積極的に医師会活動に参加できる社会を作ること」を課題として、その後、積極的に女性医師問題に取り組んできた。平成17年には女性医師懇談会にて女性部会設置の決定、18年に女性医師部会設立準備委員会の設置につづいて、19年に『女性医師参画推進部会』が設立された。平成23年には、『男女共同参画部会』に名称が変更される予定である。

今年度の女性医師参画推進部会には、勤務環境改善、地域連携、広報、総会企画、女子医学士キャリアデザイン支援、育児支援の6つのWGが設置され、それぞれ活動している。

育児支援WGでは、女性医師への育児支援と

して、ハード面では、保育施設などの情報提供、ソフト面では、先輩女性医師の助言などを当初考えた。

しかし、医師の勤務の特殊性を考えると、通常の保育施設の情報だけでは不十分で、個人的なサポーターの紹介、さらに、サポーターを探す暇もない女性医師のために、代理人の必要性などが考えられた。

ちょうどその頃、日本医師会と厚労省が進めていた、保育相談員設置の話があったので、早速、保育相談員設置を行った。

保育相談員の条件としては、仕事と育児の両立について理解があること、医師の生活が理解できることを中心に選定を行った。募集は、一般公募で、まず書類審査を行い、面談で決定した。

同じころ、個人的なサポーターのプールである21世紀職業財団が保育事業を終了することがわかり、解決策として、山口県医師会で保育サ

ポーターバンクの設立が考えられた。

医師会独自のバンクをつくるにあたっては、バンクの需要、バンクの供給、事故への保障、バンクの維持という4つの問題が考えられた。

バンクの需要については、利用する女性医師を増加させるために広報活動を行った。

バンクの供給としてのサポーター数の確保には、21世紀職業財団への協力依頼や、広報活動などを行った。

事故への保障の問題では、「施設賠償責任保険」と「生産物賠償責任保険」への加入を考え、保険料は山口県医師会が負担することとした。

サポーターの意識の維持については、サポーター研修会の開催やサポーター通信の発行などを考えた。

現在の登録サポーター数は82名で、半分以上

が21世紀職業財団からのスライドである。

現在までの相談件数は20例で、そのうち、のべ8例にサポーター活動がなされている。

以上をまとめると、山口県医師会保育サポーターバンクの特徴としては、医師会独自の組織であり、女性医師の就業継続が目的であること、サポート対象は原則女性医師に限ること、相談員が直接女性医師やサポーターと接触してきめ細かい対応を行うこと、保育のみならず、双方が合意すれば家事支援も入りうること、報酬は双方が話し合いで決めること、である。

現在の育児支援WGの活動は、サポーターバンクを中心に行われ、需要の維持、供給の維持、意識の維持の3つの車輪を常に動かしながら活動を行っている。

「保育相談の実務を担当して」

(社)山口県医師会 女性医師保育相談員 崎里節子



保育相談は主として次の3パターンに分けられる。①「保育サポーターを求めもの」、②「保育園等の施設情報や斡旋を求めもの」、③相談事業の内容を照会するもの。実質的には

は昨年9月にスタートして受けた相談件数は20件。うち、①12件、②3件、③5件。具体的な内容は資料のとおり。

①について、その流れは下記のとおり。

1. 電話・メールにて女性医師から相談員へ連絡が入る。

2. 女性医師に詳しい話を聞く。可能であれば面談の機会を持つ。

3. バンク登録者の中から、適任者をピックアップしてサポーター本人へ電話照会。必要があれば面談に出向く。

4. 女性医師(子どもや夫同席の場合あり)、サポーター、相談員で面談。改めて要望する支援内容や手当の確認をし、双方の意思確認ができれば、詳細について詰める。

5. (できれば翌日)面談内容を相談員がメモにまとめ、双方に確認を依頼する。内容が単純な場合は、この作業は省略する場合もある。

6. 具体的な支援日以前に、賠償責任保険の加入手続きを行う。県医師会として損保

ジャパンと契約しているもので、保険料は県医師会が負担。

7. 支援開始後は、基本的には、双方の直接連絡により支援を続ける。直接言いにくいこと等あれば仲介する旨、面談の際伝えるが、今のところその例はない。

8. 支援開始後、しばらく経過して、双方にメール若しくは電話で様子を聞く。双方が、「相手」が満足してくれているかどうか気になっていることが伺えるが、これといったクレームや不満は今のところ聞かない。

②については、山口大学の院内保育所担当や宇部市の地域医療対策室と連携して調整にあたる。③については情報提供と広報に努めている。

事務的実務については、相談対応事例の個別の経過記録作成及び関係書類のファイリング、対応一覧表の整理、恒常的なサポーター勧誘や登録受付事務等がある。また、部会WGとサポーターバンク運営委員会の事務担当として、委員長と調整しながら、委員会招集や、メンバーに最近の情報提供などを行う。県の委託事業であることから、県への定時報告作業もある。実務量として多すぎると感じたことはない。

実質的に発足してまだ1年、感想や改善策等を断言できる時期ではなく、下記については、あくまでも個人的感想の域を越えないものとして受け止めていただきたい。

部会WGの先生方は前向きでアクティブであり、連絡手段は主としてメールになるが、リアクションも早く、建設的な意見をもらうので助かっている。ただ、いわば全くの素人が、恐れ多くも実体的には一人で「相談対応」をすることは、正直なところ自信もなく、ひたすら誠意と笑顔と女性医師を応援する気持ちだけ

でやっているのが実情。不安要素や疑問が生じた場合は、委員長と密に連絡を取り合い、適切な助言を得て、現在のところトラブルもなく進めている。

勤務デスクは、図書資料室の一角で、他の職員と交わることがない。単一の委託事業のみの担当なので、事業推進に直接的な支障はないが、側に相談相手がいないことと、事業を継続していく時の引継への不安がある。小さいことまで言い及べば、電話は携帯電話のみで固定電話はない。広報用のチラシ等へは、対応時間を刷り込んでいるが、「携帯=いつでもOK」の先入観は拭えないだろうと心配なところもある。また、その対応時間については、いわゆる勤務時間内だけでよいのかどうか、今後のバンク運営の充実策の検討と併せて検討の必要があると考える。

全く個人的なことで恐縮だが、長年の医学部勤務の経験から、組織や人を知っていることは幸いした。

特につらいと思ったことは一度もなく、数は少ないが、サポーター支援が成立して感謝の言葉をもらう時や、サポーターから、「子どもから元気をもたらしている」等の言葉を聞く時は、やり甲斐を感じる一瞬でもある。

とりとめのない羅列に終わってしまい、ご希望に添えるものになっているかどうか甚だ不安なところだが、まだまだ未熟で課題も多いこの事業、今後更に充実して、益々増えるであろう女性医師の就業継続の一助になることを、初代の担当者としては切に願っているものである。

今回の機会を与えられたことに改めて感謝すると共に、外部から見られての忌憚のないご意見やご感想をお願いして終わる。

岡山県医師会保育支援事業研修会・ 第6回岡山県医師会女医部会懇談会に参加して

岡山県医師会女医部会 副部長 深田好美

第6回岡山県医師会女医部会懇談会が、開催されました。出席者は、岡山県医師会から神崎理事、女医部会委員10名、女性医師3名でした。岡山県医師会、また女医部会も女性医師支援のため、保育支援事業を考えていますが、既に事業を進めている山口県医師会の先生方に今回色々お話を聞くことができました。お二人の方に来ていただいたのですが、上田聡子先生は、麻酔科の医師で山口県医師会の女性医師参画推進部会の保育ワーキンググループを取りまとめておられる方です。また崎里節子先生は、長年山口大学医学部の学務課長や教育学部事務長を歴任された方で、保育事業の実務担当者です。講演の後、それぞれの子育ての経験を含めて活発な意見交換が行われました。

出席者はほとんど子育てが終わった年代で、仕事を辞めずに子育てをするために、母親や姑、姉妹等、家族に協力してもらったり、子守さんやお手伝いさんに見てもらった方が多かったようです。しかし、出身が県外の方は、何処に、また誰に頼んだらよいのかわからず、看護婦さんや中にはミシンのセールスマンにサポーターを探してもらった人もいたそうです。保育園の利用者は、子供の急な発熱時や仕事が遅くなる時の迎えが困ったので、延長保育や病児保育、24時間保育などがもっと充実し、働く女性みんなが利用できるようなになれば理想的では、とのことでした。

山口県の保育サポーターについては、いくつか質問がありました。やはり人間同士ですから、サポーターの人とお願いした女医さんの間に何か問題が起こったら、当人同士だけでなくコーディネーターがある程度主導権を持って解決に当たるのですか、と言う質問ですが、幸い今のところ問題なく続いているそうです。事あるごとに、女医さんにもサポーターさんにも何かあったら言ってくださいとお話ししていますが、中に入って仲介しなければならないことはなかったそうです。また部会員から、サポーターにもワークシェアリングしてもらい、二人で一家庭を見てもらう方が、時間的にも融通がきくし、問題が起こったとしても両方の話が聞けるのでは、という意見がありました。

サポーターをどうやって選んだのかという質問ですが、基準は今のところないそうです。最初は基準を作ろうか、保育の仕方などのかなり厳しい研修会を開いて、それを受けた人だけサポーター登録してもらっては、という話もあったのですが、とりあえずどれだけ集まるかわからないので登録してくれる人は無条件に登録しては、ということになったそうです。医師会は雇っているのではなく、紹介するだけで、できるだけ保険も付けていますが、最初にサポーターバンクを作るときに、「事故が起こったらどうするの?」「子供に何かあったらサポーターさんどこまで責任がとれるの?」といった意見があって、バンク自体もポシャリそうになったそうです。しかし、上田先生が子守さんを見つけるとき、どうしてよいかわからない、何処に頼んだら子守さんがいるのか?とほんとうに困られたそうです。せめてそういう大変さをなくしてあげたい、というところから始めたので、「こういう人がいますよ。その中からいい人を選んでね。後はあなたが決めなさいね。」と、探す手間をなくするのが目的で、そこから先の問題はこれからとのことでした。

部会員から昨今の学生の話が出ましたが、東北大学のアンケートで一年生の時点で、「何かあれば


仕事を辞める」という選択肢もあると回答されて、アンケートをとった先生がショックを受けられたそうです。また、女子医大など非常に女性支援を先駆的に行っている大学の先生が言われるのは、支援が進めば進むほど、最初から自分の目標を週一日二日勤められればそれでいいと、目標設定を非常に低くする人が増えてきていて、そこをどうするかが今後の課題だということです。医師を続けようというモチベーションをどれだけ高く、あるいは強く持ち続けられるかは教育によるところが大きいと思われます。女医さんどうしても、今フルタイムでなくてもやりたい、やろうという気持ちの支え、連帯感が大切で、それを学生教育でどういう風に作っていきけるかはこれからの課題とのことです。

女性医師への支援は、選択肢が多いほど働きやすくなるので、サポーターシステムも個々に応じた有効な方法の一つと言えます。岡山県医師会でも、保育支援の方法を考えています。山口県医師会の取り組みはとても参考になりましたし、活発な活動に目を見張る思いでした。

岡山県医師会・岡山県

女性医師相談窓口

保育をはじめとする女性医師の仕事と家庭の両立、
現場復帰時のさまざまな悩みについて、
先輩医師がアドバイスを行っています。



情報提供内容

岡山県医師会
保育情報


- 産休・育休明けに備えて保育園を探したい
- 院内保育を利用しているが、子供も大きくなったので地域の保育園を利用したい
- 発熱など保育園からの緊急呼び出しに対応するには?
- 予定の時間に仕事が終わりそうにないのでお迎えに間に合いそうにないときは?

↓

ご希望に応じていくつかの保育園や
ベビーシッターの情報を提供いたします
(2010.12 開始予定)

女性医師バンク
求人情報

- 岡山県医師会女性医師バンクでは、県内の求人情報を提供しています
- 求職に際して相手先の病院とのコーディネートを行います



お問い合わせ・連絡先

086-272-3225 [9:00~17:00 (平日)]

FAX 086-271-1572

✉ jyoibukai@po.okayama.med.or.jp

[FAX・e-mailは24時間対応しています]

岡山県医師会
女性医師相談窓口

◇シリーズ 女性医師支援 病院での取り組み◇

第5回

第8回女性医療フォーラムが岡山で開催されました。

岡山労災病院長 清水信義



平成22年11月13日、岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）で、独立行政法人労働者健康福祉機構と岡山労災病院が主催した「第8回女性医療フォーラム」が開かれました。

今回のテーマは晴れの国岡山に因んで「女性のワークライフバランスを考える～晴れ晴れと生きるために～」としました。開会の挨拶では、関原久彦総括研究ディレクターが、「働く女性の多くが、職場や家庭でのストレスに悩んでおり、そのストレスをなくすためにはワークライフバランスを考える必要がある」と述べ、「過去の本フォーラムは主として医師不足の中で、女性医師の問題を取りあげてきたが、今回は、企業、医療、行政などさまざまな立場で働く指導的な立場の女性に、職場の『ワークライフバランス』について講演して頂く」と述べられました。

第一部の研究報告では、岡山労災病院の井上雅医師が、「女性泌尿器領域の現状と展望」と題して報告しました。岡山労災病院では平成20年9月に「女性のための総合外来」を開設し、その中で、婦人科、泌尿器科が連携して「女性骨盤底外来」を開設しました。この外来は、女性泌尿器科領域を扱う外来で、主に、頻尿、失禁、骨盤臓器脱、間質性膀胱炎などの診療を行います。このような疾患は、男性医師には相談しにくく、女性医師が担当すれば、気軽に相談できる環境が作れます。今回、井上医師はとくに女性のQOL（生活の質）を阻害する「腹圧性尿失禁」「過活動膀胱」「切迫性尿失禁」「骨盤臓器脱」について、それぞれの疾患の原因、また治療方法について解説しました。これらの疾患はいずれも、骨盤底筋の筋力を高める体操、内服薬、手術などで治療が可能です。特に骨盤内の臓器、子宮や膀胱、直腸などが下がってしまいう「骨盤臓器脱」に関して、岡山労災病院では2009年（平成21年）より、メッシュ（網目状の膜）で骨盤臓器を支える手術方式を導入し、これまで260人余りの人が手術を受け、QOLを回復していると報告しました。

第二部のシンポジウムは、まず、株式会社ワーク・ライフバランスの代表取締役社長小室淑恵氏による「あなたが輝く働き方～秘訣はワークライフバランス」と題する講演でした。「ワークライフバランス」は、企業から、また社会全体からもニーズが高まっており、それは、ワークライフバランスを実現することにより、働きやすい、モチベーションを保ちやすい組織ができ、そこには優秀な人材が集まるからです。良いワークライフバランス環境がいまや企業の経営戦略となり、円滑な会社運営や生産性向上につながる。引いては、社会の子育て支援にまで及び少子化を子育てのし易い社会にかえて人口減を抑制することにまで及ぶとのことでした。家庭では、男性に役割を分担して貰うことが重要としました。

2番目の演者として、株式会社岡山高島屋代表取締役社長の肥塚見春氏が「一人ひとりがやりがいを持ち、能力発揮できる企業へ～タカシマヤのワークライフバランス支援について～」と題する講演をされました。女性が多く働く百貨店という現場で、肥塚氏のご経験も含めて、出産や子育て、介護などで一時職場を離れざるを得ない人に対する再雇用制度ができたこと、さらに現在では、育児や介護など個人の事情に合わせて勤務制度も5パターンでき、柔軟な働き方が選択できるシステムとなっていることなどが紹介されました。女性の多い職場ならではの早からの取り組みがあり、その中で女性の働く環境を理解する上司の存在は大きく、今は、権限と責任のある立場で仕事が出来ているとお話されました。

3番目の演者は、株式会社ベネッセコーポレーション人財部の池田和氏で、「女性が長く、活躍し続けられる企業を目指して～ベネッセのWLM（ワークライフマネジメント）支援の取り組みについて～」との講演でした。自らの病気休職および復職のご経験も交えて、「地域や社会とつながることで、仕事ではわからない気づきを得て視野を広げることができ、それを仕事に還元することができます。働く人が自らワークライフバランスをマネジメントし、実施することで企業も成長します」とワークライフマネジメント（WLM）という概念を提示しました。

4番目の演者は、岡山大学大学院地域医療人材育成講座教授片岡仁美氏の「岡山発『女性を生かすキャリア支援計画』に取り組んで」の講演でした。女性医師の離職を防ぎ、復職を支援するため「離職防止（先輩からの知識や経験を伝えてやめないように支え合う）」「復職を支援（細くとも途切れずに働くシステムの構築）」「次世代育成支援（病児保育ルームの開設や、上司や家族がチームとしてサポート）」を挙げて実践されました。2010年（平成22年）からは、岡山県地域医療再生計画の一環として「岡山県女性医師キャリアセンター事業」の事業委託を受け、現在、この働きを県全体へと広げています。

5番目に登壇された新見公立短期大学地域看護学専攻科教授の福岡悦子氏の講演は「女性が働き



シンポジウム（右から、肥塚氏、池田氏、片岡氏、福岡氏、伊東氏）

続けられる秘訣～家族の支援と感謝の心、そして本人の働きたいという意欲」でした。

6番目に、行政の立場から「健やかで心安らぐ暮らしの実現を目指して」との題で、伊東香織倉敷市長が講演されました。倉敷市でのワークライフバランスの実現に向けて、男女共同参画や子育て支援の具体的な実践例に加えて、昨今話題の首長自身の育児休暇取得への賛否などにも触れられました。また、社会でのワークライフバランスを実現するには、「国」「地方公共団体」「企業」「市民」という4つの枠組みでそれぞれに取り組み、発信することが大切だとして、倉敷市としての意欲を述べられました。

最後に短時間でしたが5人の演者によるシンポジウムが行われ、座長の星野寛美関東労災病院医師から、「メンタルな要因で働けなくなることに対する点では、どのような対策があるか」との話題で始まり、活発な意見交換が行われました。

第三部は、今売れっ子の作家のあさのあつこさんがトークで、岡山労災病院の田端りか氏、中部労災病院の上條美樹子氏を相手に「自分を生きる、表現する」のテーマで強い思いを語られました。家庭と作家生活を両立出来たのは「良い作品を書きたい」という強い気持ちがあったからであり、子育てが終わった今は、後世にながく残るような作品を書きたいと願っているとお話されました。

最後に、清水信義岡山労災病院長の挨拶で、熱気に包まれた第8回女性医療フォーラムを終了しました。



岡山県医師会の女性医師支援活動

岡山県医師会理事 神崎寛子

平成22年度の女性医師支援活動は下の表に示すとおりです。

女性医師バンクは昨年度に引き続いての事業ですが、特に内科の求人に対して求職者が極端に少ない状況が続いています。今年度は1件の成立をみましたが、新しい求職希望者がいない状況が続いています。

保育相談事業は保育関連施設の概要調査を終了させ、相談窓口を開始していますが、現在のところ相談件数は0です。さらなる広報活動に力を入れるつもりです。保育関連施設のデータベースもインターネット上に公開予定です。公開が決まりましたら、県医師会報でお知らせいたします。

岡山県医師会主催の生涯教育講座、講習会等に託児サービスを設けました。県医師会報や案内のFAXに託児申し込み用紙を添付するようにいたしました。資格の更新等に必要の講座には積極的に託児サービスを設けるようにしておりますのでご利用下さい。

岡山県の女性医師支援活動の大きな柱であります岡山大学の「MUSCATプロジェクト」との連携を密にすることにし、岡山県病院協会や岡山県保健福祉部のご協力を仰ぎ4団体で岡山県女性医師等支援委員会を発足させました。それぞれが、単独で活動するのではなくできるだけ有機的な活動ができることを願っています。

〈表〉平成22年度 女性医師支援活動

- ◆女性医師等就労支援相談窓口事業
 - 岡山県女性医師バンク
 - 復職支援コーディネーター
 - 保育相談事業
 - 保育園等の情報提供
- ◆託児サービス
 - 県医師会主催の講演会での託児サービス開始
- ◆他の女性医師支援活動との連携
 - 岡山県女性医師等支援委員会設立
 - 第1回MUSCATフォーラムを岡山大学医療人キャリアセンター MUSCATと共催
 - 女性医療フォーラム(労働者健康福祉機構主催)の後援

岡山県医師会ホームページに女性医師支援コーナーを開設いたしました。
Topページより下のバナーをクリックしてください。



<http://www.okayama.med.or.jp/topcontents/joseishi/index.html>

託児サービス等の情報は随時更新しております。
女性医師バンク、女性医師相談窓口もご利用下さい。

岡山県医師会 宛 (Fax 086-271-1572)

保育相談シート

※相談回数	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> 以前あり
※住所	〒 _____
※氏名・年齢	_____ (_____ 歳)
※電話番号	自宅または携帯電話 (_____) _____
※メールアドレス	
※勤務先 (医療機関の名称)	
(差し支えなければ) 専門とする診療科目	内・外・眼・整・皮・産婦・精・麻・その他(_____)
※現在の勤務形態	常勤 ・ 非常勤 ・ 研修医 ・ 休職 ・ その他(_____)
※希望する保育サービス	<input type="checkbox"/> 保育所 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> ファミリーサポート <input type="checkbox"/> ベビーシッター <input type="checkbox"/> 家政婦紹介 <input type="checkbox"/> その他
※ご相談の内容	
その他 (差し支えなければ)	子どもの年齢 _____ 歳 性別 男・女 <input type="checkbox"/> 夫 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 父 子どもの年齢 _____ 歳 性別 男・女 家族構成 <input type="checkbox"/> 兄弟 <input type="checkbox"/> 姉妹 子どもの年齢 _____ 歳 性別 男・女 _____ 名 <input type="checkbox"/> 祖父 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> その他
※回答希望欄	<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> 郵便 <input type="checkbox"/> MAIL <input type="checkbox"/> FAX ※電話の場合、ご希望の時間帯をお書き下さい。 <input type="checkbox"/> 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分 <input type="checkbox"/> いつでもよい